

今年度の活動

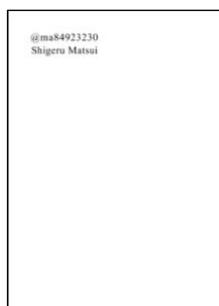
2021 年度は、採択された「メディア技術の諸相を主題にしたテレビ・ドラマの自己省察的表現の研究」(放送文化基金)と、「パレオ TV と建築——メディア・イベントの設計者としての磯崎新」(窓研究所)を中心に個人研究を展開した。この 2 つの研究は、21 年 3 月に刊行した『虚像培養芸術論 アートとテレビジョンの想像力』(フィルムアート社)の展開である。前者の研究は 2010 年代のテレビ番組がインターネットの影響をどのように吸収し、業態としての変化を踏まえ、どのような表現を展開してきたかを研究した。研究活動の一環として、「iamas open_house: 2021」(オンライン開催)にあわせて、研究計画のプレゼンテーションと、社会学者の田中東子(大妻女子大学)とのディスカッションを公開した。後者の研究は、磯崎新の思想性をポスト・メディア論から構築する試み。『PFF スペシャル映画講座』に際して、磯崎新が美術協力で参加した映画『他人の顔』について、音楽家の長嶋寛幸(東京藝術大学)とレクチャーした。今年度の調査研究を踏まえ、次年度以降にいずれも論文化する。

2020 年度に松田愛(富山大学芸術文化学部)が代表を務める『アートと地域の協働をキュレーションする』に参画し、レクチャー、ディスカッション等を重ねてきた。芸術体験をめぐる議論を編集し刊行した。これに付随するかたちで「奥能登国際芸術祭 2020+」、「建築家・坂倉準三「輝く都市」をめざして」に関する評を書いた。

作品として、Twitter を支持体にして制作した詩を『@ma84923230』として刊行した。

2001 年から継続して制作している「純粹詩」が、West Museumkwartier で開催された展覧会“ALPHABETUM IX L'ÉCRITURE AVANT LA LETTRE”で展示された。

学内では、担当授業の研究教育活動、担当学生の指導の他、研究委員会(委員長)、オープンハウス実行委員会(委員長)を務めた。





作品

[展示]"[ALPHABETUM IX L'ÉCRITURE AVANT LA LETTRE](#)," West Museumkwartier
(Den Haag), 09.10.2021 — 27.03.2022

[詩集]"[@ma84923230](#)』engine books - difference、2021 年 12 月

書籍

・松田愛、松井茂、外山紀久子、伊村靖子(共著)『[アートと地域の協働をキュレーションする](#)』富山大学芸術文化学部、2022 年 2 月 28 日

寄稿

・[「西 2 丁目地下歩道映像制作プロジェクト\(大木裕之、野口里佳によるアーティストトーク 聞き手: 松井茂\)」](#)『札幌文化芸術交流センター SCARTS 活動記録「SCARTS 2020 Annual Report」』札幌市芸術文化財団、45-59 頁、2022 年 3 月 31 日。

・「方法詩の実践と社会との関わりについて」『アートと地域の協働をキュレーションする』富山大学芸術文化学部、2022 年 2 月 28 日。

・「私的芸術体験試論」『アートと地域の協働をキュレーションする』富山大学芸術文化学部、2022 年 2 月 28 日。

・「記憶の拠り所となる都市を培った人々の物語」(『建築家・坂倉準三「輝く都市」をめざして』)『週刊読書人』(3427) 2022 年 2 月 11 日。

・[「さびしみつつ新しむ——「奥能登国際芸術祭 2020+」の場所と芸術とそれをめぐる人々」](#)(展評:「奥能登国際芸術祭 2020+」)『美術手帖 web』2022 年 2 月 10 日。

・[「メディアの変化が再発明したテレビドラマと新たな芸術家像」](#)(書評:『脚本家・野木亜紀子の時代』)『週刊読書人』(3408) 2021 年 9 月 24 日。

・[「第三の軸」を再配置する](#)(書評: 飯田豊『メディア論の地層』)『立命館アジア・日本研究学術年報』2、136-138 頁、2021 年 7 月。

・パネルディスカッション「晩年の岡井隆をどう評価するか」小池昌代、平田俊子、藤井貞和、松井茂、江田浩司『現代短歌』136-138 頁、2021 年 7 月号

発表

2021 活動報告書 松井茂

・「勅使河原宏の音と空間」『PFF スペシャル映画講座』で長瀧寛幸(音楽家)と対談。国立映画アーカイブ、9月23日。

・「松井茂、田中東子さんにテレビドラマ研究を相談する」『iamas open_house: 2021』で田中東子(大妻女子大学)と対談。7月22、23日にオンラインで公開。

社会的活動

[公益財団法人放送文化基金放送文化基金]「メディア技術の諸相を主題にしたテレビ・ドラマの自己省察的表現の研究」。

[窓研究所研究助成]「パレオ TV と建築——メディア・イベントの設計者としての磯崎新」。

学内の活動

[プロジェクト] Archival Archotyping、タイムベースメディア・プロジェクト

[授業] 総合学 A、メディア表現特論 A

[編集] 『情報科学芸術大学院大学[IAMAS]紀要』vol.13 2022年3月(80頁)